

第1学年 *組		国語科学習指導案	
平成 * 年 * 月 * 日 (*) 第 * 校時		指導者 * * * *	
育成する国語の能力	課題を解決したり考えを深めたりするために、相手の立場や考えを尊重し、表現の仕方や進行の仕方などを工夫して話し合うこと。(指導事項ウ)		
単元名	問題点を見出し、話し合いをとおして解決策を立てよう		
単元目標	<p>○ 自分の意見を持って話し合いに参加し、各自に課された役割を果たそうとする。 (関心・意欲・態度)</p> <p>○ 他者の意見との共通点や相違点を意識して聞き分け、合意形成を目的として自分の意見を述べることができる。 (話す・聞く能力)</p> <p>○ 日本語を正確に使うて自分の考えを他者に伝えることができる。 (知識・理解) ([伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項] のイの(ア))</p>		
単元の評価規準	関心・意欲・態度	話す・聞く能力	知識・理解
	自分の意見を持って話し合いに参加し、各自に課された役割を果たそうとしている。	自他の意見の共通点や相違点を聞き分けて整理し、合意形成のため建設的な意見を述べている。	日本語の意味や文法上、適切な表現をしている。
取り上げる言語活動	反論を想定して発言したり疑問点を質問したりしながら、課題に応じた話し合いを行うこと。		
題材(教材)	危険予知トレーニング(基礎4ラウンド法)		
単元(教材)について	<p>(1)生徒観：本単元に至るまで10単位時間程度、話し合い学習を重ねている。年度当初はほとんど発言できなかった生徒も徐々にグループ内で発言できるようになり、更には話し合ったことをレポートにまとめ、全員の前で発表する役割を果たすこともできるようになっている。本単元ではもう一歩踏み込む。「正解」のない課題を全員で共有して合意形成するという、実社会でも日常的に行われる話し合いをとおして自他の考え方の共通点や差異に気付かせ、思考力向上へとつなげたい。</p> <p>(2)教材観：危険予知トレーニングは多くの製造業で実際に行われている訓練である。工業教育の側面を活かしつつ、あくまでも国語科の話し合い活動の教材として、「言葉で問題意識を共有して解決策を立案する」という目標を明確にすることに留意する。</p> <p>(3)指導観：話し合いの効果を高めるために、細かく指示をするよう心掛ける。個人レベルでアイデアを練る時間や共有と優先順位付けをする時間を区切ったり、リスクを洗い出す時点や対策案を出す際の表現法について注意を促したりして深い合意形成に導きたい。</p>		
指導計画(学習計画)	主な学習活動		主な評価
	<p>第1時</p> <p>危険予知トレーニングの進め方をまとめた動画を見て学習活動の概要と目標をつかみ、想定されるリスクについて話し合う。</p> <p>第2時</p>		<p>・自分なりに物事を考え、意見をまとめて他人に伝えている。 (話す・聞く)</p>

共有した意見に優先順位をつけて事故を回避するための対策を考え、グループごとに話し合いの成果を発表する。	・課題を解決するためにメンバーの意見を尊重して自分の意見を述べている。 (話す・聞く)
---	--

本 時 案 (第1時)

本時の目標	○ 活動内容と目標を理解し、各自に課された役割を果たすため話し合いに臨む。 (関心・意欲・態度) ○ 課題について自分の意見を持ち、他者の意見との共通点や相違点を意識して聞き分け、合意形成を目的として自分の意見を述べるができる。 (話す・聞く能力)
-------	---

学習活動	指導上の配慮事項など	評価・方法など
1 製造の現場で実際に発生している事故について知る。	○ 厚生労働省の WEB ページを紹介し、学習内容を少しでも自分のことに近づける。	
2 危険予知トレーニングの進め方をまとめた動画を見て、学習活動の概要と目標をつかむ。	○ 時折停止しながら、グループ活動の時に重点的に話し合う項目を説明する。	

課題を解決するために他者と協働して話し合い、合意を形成する。

3 4人1グループに分かれて「リーダー」「記録」「レポート」「発表」の役割分担と、どの課題を選ぶかを決める。	○ 一人1役、責任をもって果たすよう伝えるとともに、以前の話し合いで負った役割以外を担当するように指示する。	○ 課題と自分の役割を理解し、話し合いに臨もうとしている。 (関心・意欲・態度) (行動の確認)
4 ワークシートに従って、リーダーの指示のもと「第1ラウンド(危険の洗い出し)」の話し合いに取り組む。	○ 各状況において想定するリスクの個数は5個以上とし、記録役には発案者も記録させる。 ○ 起きうる事故だけでなくその要因にも着目させ、「～なので(危険の要因)」+「～する(事故)」の表現を守らせる。 (例)高いところにある荷物を取ろうと背伸びをするのでバランスを崩し、転倒する。 ○ 本学習活動の根幹を成すプロセスであるため、机間指導を丁寧に行って誤解が起きないようにする。	○ 話し合いの様子を観察し、各自が一度は意見を述べられているかを確認する。 (話す・聞く) (行動の観察) <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;">一努力を要する生徒に対し一・注意を促すとともに、どの段階で思考が停止しているのかを確認して助言する。</div>
5 「第1ラウンド」の成果をもとに、「第2ラウンド(危険の本質追究)」の話し合いに取り組む。	○ 洗い出した5項目のリスクのうち、「重要」という合意のとれた項目を2つ取り上げ○をつけさせ、さらに「最重要」には◎印をつけさせる。	

<p>6 各グループの進捗状況を報告し、次時の見通しをもつ。</p>	<p>○ どういった話し合いを経て重要・最重要項目を選び出したか、選定の根拠も記録させる。</p> <p>○ 「第3ラウンド（対策樹立）」「第4ラウンド（行動目標設定）」のプロセスを経て発表となることを伝え、話し合いが停滞しがちなグループの活性化を促す。</p>	<p>○ 話し合いの経過を記した記録用紙やレポートを点検し、課題が解決に向かっていくかを確認する。</p> <p style="text-align: center;">（話す・聞く） 〈提出物の点検〉</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>—努力を要する生徒に対し—</p> <ul style="list-style-type: none"> ・危険箇所の見直しや危険の要因を深く掘り下げて話し合うように助言を書き込み、次時の話し合いに生かせるようにする。 </div>
------------------------------------	---	---